



豆まき



2月3日の節分は、“季節の分かれ目”という意味で、立春の前日にあたるそうです。今年の3日（日）は曇り空ではありましたが暖かな一日でしたし、幼稚園で豆まきをした2日（土）も暖かな一日でした。そう言えば園庭の梅の木のうち、毎年一番早く咲く木が4、5日前から可愛い花を咲かせています。これで日に日に春に向かってくれれば嬉しいのですが、これからしばらくは三寒四温を繰り返しながら春に近づいていくので、体調管理には十分気を付けたいですね。1月猛威を振るったインフルエンザがこのまま終息に向かってくれることを願います。

さて、幼稚園での豆まきのことは子どもたちからすでにお聞きと思いますが、2月2日（土）に、邪気を払い無病息災を願う豆まきを行ないました。

いつもと同じように朝の挨拶をした後、担任から「節分」や「豆まき」の話をしている頃に、ズシ〜ン！ズシ〜ン！と金棒の音が響いてきて、だんだん自分のお部屋に近づいてきます。子どもたちにとってはこの時間が一番怖いようです。背筋を伸ばして【神妙な顔】で椅子に座っている子どもたちは、金棒の音に耳を澄ませながら、自分の中のいろんな思いや感情と向き合っているのでしょう。

そして、赤鬼と緑鬼がお部屋の入り口に姿を現します。何も言わずキョロキョロお部屋の中を見回す鬼。その様子を、ニコニコ顔で見ている子、訳が分からないという感じでポカンとしている子、怖くて担任の傍に駆け寄る子等、受け止め方は様々でした。

7つのお部屋を覗いた鬼は園庭へ。子どもたちも鬼に邪気や災難を全部持って早く帰ってもらおうと園庭に出て、豆をまきました。

豆まきの後はお部屋に戻って、一年の健康と幸せを願いながら、歳の数にひとつ加えた豆をいただきました。



詳しいことは知らないのですが、スマホに鬼が出てくるアプリがあるようですね。私たちは子どもを怖がらせる為に節分に鬼を登場させている訳ではありません。子どもを怖がらせたり脅かして大人の思うような行動をとらせたとしても、それは一時的、表面的なものであって、子どもの内面の成長に繋がるものかは疑問です。邪気を払う厄払いという言葉の意味を、子どもたちに伝えるひとつの方法として鬼を登場させていて、関大幼稚園の鬼は、幼稚園の中の悪いことや人間の心の中にある悪意を持って行ってくれるものとしています。子どもたちが自分と向き合い、“ちょっと怖いけれど頑張れば強くなれる”そんな風に思いながら鬼と向き合ってくれればと考えています。

理屈に合わないものの存在が、子どもの心の成長に役立ってくれることを願っています。天使、悪魔、鬼、小人、神様、お月様、【子どもの心を強くしてくれるもの】として大事にしたいと考えています。現実に見えなくても出会うことはできますね。見えないからこそ、想像力や感受性が働くのではないのでしょうか。そう考えると、長年関大幼稚園の子どもたちの健やかな成長を願って登場させている鬼は、そろそろお役御免なのでは・・・と考えています。

関西大学第一中学校の3年生との交流（年中児・年長児）

昨年度、併設校である関大一中の依頼を受けて、「総合的な学習の授業」の一環として園児（年中・年長児）との交流を引き受けました。制作や集団遊びを中3生と一緒にできることは、子どもたちにとってもよい経験となりました。そして授業の最終目標である音楽劇を見せてもらった時には、子どもたちは勿論、私たちも大きく心揺さぶられました。それは音楽劇の完成度の高さという評価ではなく、生徒たちの人柄、姿勢、に触れたからでした。そして今年度も喜んで交流をお受けしたのですが、台風等の影響で計画通りの交流を深めることはできませんでした。けれど2月4日（月）には「音楽劇・森は生きている」を見せてもらうことができました。子どもたちは、食い入るように見ていましたし、“ありがとう”の拍手が終るや否や「もう一回みたい！」と大きな声があがりました。